

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390400038		
法人名	メディカル・ケア・サービス関西株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム玉野		
所在地	玉野市田井1丁目6-19		
自己評価作成日	平成24年10月15日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ユニット間の交流が行いやすい造りになっている為、開放感があり、ユニット間の交流が日常的に自然な形で行うことができている。地域の幼稚園から高等学校まで、幅広い世代との交流を定期的に続けており、また地域住民の方に秋祭りや消防訓練にご参加頂いたり、地域主催の研修会に参加するなど地域との関わりを大切にしています。また、介護に対する理解を深めるため、そして職員の勉強意欲の受け皿として、事業所内研修の充実や外部研修へ積極的に参加しています。ご入居者のその時々のお気持ちや思いを傾聴しながら、入居者本位の支援に取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.in/33/index.php?action=kouhvu_detail_2012_022_kani=true&JivvosvoCd=3390400038-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室		
訪問調査日	平成24年11月6日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

可愛い園児たちに囲まれた利用者は、生き生きとした最高の笑顔で輝いていた。たまたま調査日が地元保育園の訪問日に重なったが、交流カリキュラムは実に見事で、園児の愛らしい動きに、思いっきり笑い、歓声を上げ、拍手を送る、とても幸せなひと時が流れていた。日頃から地域との関係を築き、地区のボランティア委員を事業所として担当する等、地道な努力が実っている。新しい施設長となり、主にマネジメント面は施設長が、ケア面は現場リーダーが担当する役割分担が功を奏し、職員の定着が進み、落ち着いた環境が整ってきた。活気にあふれたリーダーが、利用者も職員も巻き込んで、笑顔の連鎖を作っている。もう一つの特徴が、全国規模の法人の一員であり、法人内の他の事業所と切磋琢磨しながら、ノウハウを取り入れられる点である。年1回実施する家族アンケートの結果は、玄関に大きく掲げられ、その声を受けた迅速な改善がなされている。情報公開への取り組み姿勢も素晴らしい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者と家族に、より質の高い介護サービスを提供する為に、運営理念、クレドの唱和を朝礼時に行っています。常に理念、クレドの考え方を意識した介護が取り組めるようにしています。	法人共通の理念を「普通の生活を当たり前」と題したクレドにして、全職員が携帯し、毎朝唱和している。さらに重点ケアを職員間で話し合い、月間目標にしている。理念の内面の理解を高め、もう一歩踏み込んだ利用者との関わりが持てるよう、取り組み中である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	田井地区、自治会、近隣とのつながりを大切にしています。地域の小学校・幼稚園には、定期的にホームに訪問頂き、交流を行っています。また、愛育委員としての活動も行っており、地域との関わりを大切にしています。	子どもたちとの交流で得られるものは大きいと考え、積極的に幼稚園児や学生の訪問を受け入れている。健康や福祉に関わる地区ボランティアである愛育委員に事業所として就任し、一時保育や各種活動に参加して、地域との関係を強化している。事業所の祭りには約30名の地元住民が来た。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に入らせて頂き、ゴミステーションの掃除など年2～3回行っています。また、介護に対する理解を深めて頂いたり、興味をお持ち頂けるように、地域の小学校・中学校・高校の体験学習の受け入れをしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見を利用者向上に活かしている	地域の民生委員、地域住民、地域包括支援センター職員、ご家族にご参加頂き、サービスの提供状況についての報告や相談を行っています。また、議事録をご家族に送付するとともに、ホーム内で閲覧できるようにしています。	会議で出た意見により、行事予定の広報誌への掲載や、家族が医療関係の支払いを一括化できるような変更を試みた。議事録は全家族に送付している。現在、平日の開催だが、試験的に土曜日の実施を検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは頻りに連絡をとり、介護保険に関わる情報の提供を頂いたり、入居時の受け入れ相談等を行っています。また、市の相談員の方が2ヶ月に1度訪問に来て下さりご入居者やご家族とお話をさせていただきます。	市の介護相談員派遣や出前講座の制度を積極的に活用し、事業所の運営や質の向上に活かしている。相談員は利用者との交流だけでなく、各種の情報を伝えてくれる。また、民生委員や職員の家族を呼んで、職員と一緒に救命講座を受けた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内でマニュアルを作り、事業所内の研修にて身体拘束の研修を行い、身体拘束をしないケアを実践しています。	身体拘束は見受けられない。利用者の言動の裏に潜む原因を究明し、根源を解決できれば拘束は不要という姿勢の元、職員間でアイデアを出し合い、策を試みている。また言葉による拘束がなくなるよう、互いに注意し合っている。さらに事業所内外の研修に参加し、意識と知識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	社内でマニュアルを作り、事業所内の研修にて高齢者虐待防止法の研修を行い、事業所内で虐待が起こらないように、また見逃されないように徹底して注意を払っています。各ユニットに虐待防止マニュアルを設置しており、いつでも閲覧できるようにします。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、対象者がいないので行っておりませんが、今後の勉強の為、研修の機会を設けるように致します。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時や契約改定時には、ご家族様と重要事項説明書の読みあわせを行い、都度ご不明な点があればご説明をさせて頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	社内の相談窓口、事業所内の相談窓口を設けており、意見箱の設置もしています。また、社内でご家族様アンケートを毎年実施しており、頂いたご意見やご要望に対する対策を職員で話し合いを行い、改善に向けた取組みを行っています。	法人本部による家族アンケートが毎年実施され、結果を玄関に掲示している。意見収集の仕組みが整い、迅速に解決できる体制となっている。例えば、食事内容を知りたいという声に対し、即時に献立表を玄関に置いた。家族への情報提供も豊富で、家族から喜ばれ、信頼されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回、職員満足度アンケートを実施しています。毎月1回の全体会議やユニット会議でスタッフ同士の意見交換や提案を聞く機会を設け、反映させています。	法人本部による職員アンケートが毎年実施され、結果は全職員に示される。その結果を受け、管理者は対策を講じ、本部に報告したり、職員間で解決策を話し合う。また、法人主催の事例発表会では積極的に職員の意見を取り入れ、全国大会出場や受賞につながった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の勤務の中で、職員個々の努力や実績、勤務状況の把握を行い、また定期的に個人面談を行い、各自が向上心を持って働いて頂けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加を促し、参加終了後には、全体会議等で他のスタッフへの情報の共有を行っています。また、10月からは2ヶ月に一度、中四国の「愛の家」の事業所が集まり、合同研修会を実施致します。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	玉野市のグループホーム協議会が半年に1回開催されるので、毎回出席させて頂き、他のグループホームとの情報交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントに行かせて頂き、ご本人と面談をさせていただき ご本人様が困っていることや不安なことなど傾聴する事で、安心して過ごして頂けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族と面談を行い、困っていること、不安なこと、要望等をお伺いしながら関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族が必要としている支援を見極め、ご本人様にとってより良いものを提供できるようにしています。また、サービスの変更があった時などは、都度相談し、変更しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長い人生経験の中で培われた知恵や教訓、料理や手芸を教えて下さったり、買い物では食材の選別の仕方をご教授頂くなど、暮らしを共にする関係を大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事のご案内をさせて頂き、ご家族と入居者が一緒にお過ごし頂けるよう努めています。また、運営推進会議や研修会にご家族に参加して頂き、共に介護について考えながら、ご本人を支える関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者に関わりのある方の面会については、ご家族の承諾を得て、馴染みの人との関わりが継続して行えるように支援しています。	職員が訪問者を笑顔で温かく迎えるので、来訪者は比較的多く、家族はとても行きやすいと感じている。また、雑巾縫いや編み物、買い物などユニットに関係なく、気の合う利用者どうしでできるようにし、ここでの馴染みを増やしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が良好な関係が築けるように、共同で洗濯物たたみの手伝いを行って頂いたり、各種アクティビティーの中での関わりの中で、お互いが支え合う関係が作れるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後のご様子をご家族に確認させて頂いています。ご家族の承諾を得て、転居先の病院や施設へのご面会やお見舞いに伺わせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族のお話の中から、ご意向をお聞きしています。コミュニケーションの難しい入居者の把握についてはご家族の希望や意向や生活歴から本人本位の支援が行えるように努めています。	利用者から料理や縫い物を積極的に教えてもらったり、週1回の足マッサージをしながら、職員は各人の得意なことや話に耳を傾けている。自分で意向を伝えられる利用者が多く、最近、行きたい場所のアンケートを職員が取ったので、そこへ足を運ぶ企画が進行中である。	管理者は、職員がもう一步突っ込んで利用者深く関わることで、各人の能力をもっと活かす方法があると考えているが、その実現を期待したい。行きたい場所に訪問する企画の実現も期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントや面会時に、本人と家族から生活歴や生活習慣等の情報収集を行っています。入居前に介護サービス等を利用されていた場合は、担当者から情報提供書を頂き、これまでのサービス利用の経過の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各勤務に入る前の申し送りやカンファレンス等で、日々の状態の把握に努めています。そして、利用者様の少しの変化も見逃すことのないよう、スタッフ同士の情報の共有に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向や要望を伺い、職員で話し合いを行ったうえで、介護計画を作成しています。	家族に公開している介護の経過記録は、丁寧な言葉遣いで詳細に記されている。その上で家族の意見を得てはいるが、経過記録と介護計画とのつながりがほとんど見られず、結果的に毎回ほぼ同じ介護計画となっている。	介護計画を意識した経過記録の書き方や、根拠のあるモニタリングにより、次の介護計画に活かせるような仕組み作りを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の利用者様の行動や言動、また、利用者様の状態は個別の介護記録に記入しています。バイタル・排泄などは、一覧の表にしスタッフ全員が一目でわかるようにし、情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な体調不良時の受診の付き添いや、外出希望時の同行等、入居者やご家族のその時々状況に応じて支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の幼稚園の訪問や2～3ヶ月に1回のボランティアの方の慰問など積極的に受け入れさせて頂き、地域との関わりの中で安全で豊かな暮らしを楽しむことができるようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者やご家族の希望を伺い、協力機関の往診、あるいは入居前のかかりつけ医への受診をして頂いています。また、希望者には訪問歯科による口腔ケアのサービスも行っています。	往診や緊急時対応のできる協力医が安心して利便性も高いと、ほとんどの利用者がかかりつけ医を協力医に変えている。2名の准看護師により、日常の様子を的確に医師に伝えられ、連携強化が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	社内には、看護師はおりませんが、往診医の訪問看護の看護師の方が来て下さり、全入居者の体調管理をして下さいます。往診医と訪問看護の看護師が同じ病院ですので、連携もとりやすくなっております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に情報提供を行い、入院中には担当看護師や相談員に様子を伺うなど、連携を図っています。退院時は、看護サマリーを作成していただき、円滑な受け入れができるように医療機関との連携を図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の意向を伺いながら、事業所で終末期ケアをご希望される場合は、医療機関、事業所、そしてご本人とご家族の間で十分な話し合いを行いながら、ご対応させて頂いています。	以前から医師らとの連携が図れ、本人や家族にも終末期のケアを説明し、同意書を取るという看取り体制ができていたが、初めて看取りを経験した。家族と何度も話し合い、職員へも十分な説明をして納得してもらい、一丸となってケアに臨んだ。その結果、大好きな果物を食べたいという本人の最期の希望を叶えた看取りができた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内にマニュアルがあり、そのマニュアルに沿って対応しています。また、緊急時に落ち着いてかつ適切な対応が行えるように、消防署主催の普通救命講習Ⅰの受講を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、夜間を想定したものを含め年2回開催しています。6月開催した消防訓練では、玉野市消防署立会いのもと、地域住民の方のご協力を頂き、避難訓練、通報訓練、消火訓練を実施しています。	昨年の課題であった、消火器の位置、消防への通報装置の操作、避難経路などの理解が職員に浸透し、また、消火器も増設されていた。避難訓練には多少の住民も参加した。食糧も備蓄され、昨年に比べ、かなり災害対策が強化されていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全体会議や研修で、入居者に対する言葉遣いや対応について考える機会をもち、尊敬の気持ちを込めた言葉遣い・対応を心掛けて行っています。また、記録物の保管については入居者の目の届かない場所で保管するなどプライバシーに配慮しています。	管理者やリーダーは、利用者を人生の先輩として接することを重視し、居室入室時のノックなど、プライバシーへも配慮している。職員の言動が不適切な場合は、その都度、注意をしているが、時折、トイレ介助中の戸の閉め忘れや、砕けた言葉遣いで対応が見られた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の状態に合わせ、また、ご本人のわかる力に合わせてご自身で決めることができるように支援しています。耳が遠くコミュニケーションが難しい場合には、筆談でのコミュニケーションも取り入れています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の1日の過ごし方を優先に考え支援しています。その時々のお気持ちやご体調に合わせて支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時・入浴後では、入居者のわかる力に合わせて衣服の選択肢の提供を行い、ご本人にお選び頂いて更衣して頂いています。また、整髪や髭剃りはできる力に合わせて支援を行い、外出時には、お化粧などの支援も行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の個々のできる力に合わせて、食卓のテーブル拭きや下膳等のお手伝いをして頂いています。玄関前のテラスでお茶を召し上がって頂いたり、外食の機会を設けたりと楽しんで頂ける工夫をしています。	食材の質にこだわった、彩り、バランスの良い食事が、調理の専任者により、各人の好き嫌いや嚥下状態に合わせて提供される。職員も一緒にテーブルを囲み、同じものを食べ、食後もゆったりと利用者とは談笑する。朝食は各人の好きな時間にとってもらう。下膳を手伝う利用者もいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケア日報や水分摂取表を用いて、一日の食事量・水分量を把握し、個々の必要量が確保されるように努めています。また、体調に合わせて食事形態・内容を変更したり、補食でおぎなう等の工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所に誘導し、口腔ケアを行って頂けるよう支援しています。また、食前に嚥下体操を取り入れたり、口腔内のトラブルが生じた場合には、週1回の訪問歯科診療で定期的な口腔ケアをうけて頂いている方もおられます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターン、習慣の把握に努め、できる限りトイレで排泄ができるように支援しています。	トイレはユニットごとに2カ所あり、全て車椅子に対応している。排泄チェック表に基づき、職員は利用者を積極的にトイレに誘導している。おむつの使用は夜間のみで、終末期で体への負担が大きいか、職員一人での介助が難しい人に止めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を定期的に飲食頂いたり、食前に健口体操と称して適度な運動を行い、自然な形で排便ができるように支援しています。排便チェック表を活用し便秘が続いた場合は、主治医の指示のもと整腸剤や下剤にてコントロールしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴支援を行っております。ご体調やご要望に合わせて清拭や足浴の対応をさせていただきます。	利用者の体力を考慮しつつも、ゆったりしてもらえるよう、一人あたり30～40分程度を入浴時間にあてている。入浴剤を使ったり、一緒に歌を歌ったり、浴槽に浸ったら職員は外に出て声をかけたりと、その人に合った寛げる対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムやその日の体調に合わせた支援を心掛けています。夜間、眠れない方への安眠方法として、暖かい飲み物の提供を行い、一緒に過ごしお話を傾聴するようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個人ごとの服薬ファイルを作成し、全スタッフ把握できるようにしています。薬の副作用などの情報共有が行えており、特に薬の変更・中止・増減等があれば、普段のご様子とお変わりないか注意してご様子を観させて頂いています。内服支援時には、個々の内服を間違える事のない		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編物をして頂いたり、掃除の手伝いをして頂いたり、入居者の得意とされるものの情報をご本人やご家族にお聞きし、気持ちよく行って頂けるように支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎の行事や食事会・ドライブなどで外出する機会を設けています。また、日常的に玄関前のテラスを散歩されたり、ベンチに座りくつろいでおられます。また、ご家族のご協力を頂いて墓参りに行かれる方もおられます。	坂道の途中にあるため、次第に散歩は難しくなってきたが、気候が良ければ毎日のようにテラスなどに出て、外気を味わってもらおう。花壇の世話やゴミ捨て等、屋外に出られる機会を工夫している。2ヶ月に1度ほど、花見や外食にドライブして行く。家族が他の利用者を同乗してくれることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは、ホーム内金庫でお預かりさせて頂いておりますが、ご本人の希望により、お財布に小額のお金をお持ちの方もおられます。その都度ご家族様に確認させて頂きながら支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者からの希望があれば、電話を利用頂けるように支援しています。ご家族に毎月お手紙をだされるご入居者もおられます。また、ご本人の希望により葉書を代理購入させて頂き、ご家族に葉書をだされる方もおられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や共用ホールには、季節感のある装飾を行い、その時々を季節を感じて頂けるように工夫しています。また、わかりやすい目印や移動が行いやすい環境を心掛けています。	リビングや廊下には利用者の作品や行事での写真が程よく掲示され、にぎやかな雰囲気を出している。車椅子を使う人のために、テーブルの間隔を開けたり、床に物を置かないよう心掛けている。トイレに迷わないよう、大きくわかりやすく表示があった。消毒の散布など、衛生面も気遣っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用ホールのソファに座りくつろいでおられたり、時には、居眠りをされる入居者様もいらっしゃいます。そして、仲のよい入居者同士でご歓談をされたりと思思いに過ごしていただいております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	当ホームでは、ベット・タンス・テレビ台は、備え付けですが、入居者の使い慣れたものを持ち込み頂き、できるだけ自宅に近い環境の中で居心地良く暮らして頂けるよう支援を行っています。	写真や家族からの手紙を壁に貼る手伝い、ベッド等の配置換えをすれば、見やすい位置に貼り直している。毎日の清掃に加え、週1回のシーツ交換時に重点的な清掃もするが、家具や換気扇などが、やや埃っぽい。	もう少し清掃の頻度を上げたり、重点清掃項目の確実な実施や、掃除道具の工夫で、埃や汚れを確実に除去できるよう、期待したい。また、換気扇のルーバー等も清掃し、さらに清潔な居室を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりのできる力・わかる力を活かして、本人が自分で行って頂けるように環境や条件を整える支援を心掛けます。居室やトイレがわかりやすいように目印を付けたり、個々の力に合わせたベッドの配置の工夫等を行っています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390400038		
法人名	メディカル・ケア・サービス関西株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム玉野		
所在地	玉野市田井1丁目6-19		
自己評価作成日	平成24年10月15日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室		
訪問調査日			

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者と家族に、より質の高い介護サービスを提供する為に、運営理念、クレドの唱和を朝礼時に行っています。常に理念、クレドの考え方を意識した介護が取り組めるようにしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	田井地区、自治会、近隣とのつながりを大切にしています。地域の小学校・幼稚園には、定期的にホームに訪問頂き、交流を行っています。また、愛育委員としての活動も行っており、地域との関わりを大切にしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に入らせて頂き、ゴミステーションの掃除など年2～3回行っています。また、介護に対する理解を深めて頂いたり、興味をお持ち頂けるように、地域の小学校・中学校・高校の体験学習の受け入れをしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	地域の民生委員、地域住民、地域包括支援センター職員、ご家族にご参加頂き、サービスの提供状況についての報告や相談を行っています。また、議事録をご家族に送付するとともに、ホーム内で閲覧できるようにしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは頻りに連絡をとり、介護保険に関わる情報の提供を頂いたり、入居時の受け入れ相談等を行っています。また、市の相談員の方が2ヶ月に1度訪問に来て下さりご入居者やご家族とお話をさせていただきます。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内でマニュアルを作り、事業所内の研修にて身体拘束の研修を行い、身体拘束をしないケアを実践しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内でマニュアルを作り、事業所内の研修にて高齢者虐待防止法の研修を行い、事業所内で虐待が起こらないように、また見逃ごされないように徹底して注意を払っています。各ユニットに虐待防止マニュアルを設置しており、いつでも閲覧できるようにします。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、対象者がいないので行っておりませんが、今後の勉強の為、研修の機会を設けるように致します。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時や契約改定時には、ご家族様と重要事項説明書の読みあわせを行い、都度ご不明な点があればご説明をさせて頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	社内の相談窓口、事業所内の相談窓口を設けており、意見箱の設置もしています。また、社内でご家族様アンケートを毎年実施しており、頂いたご意見やご要望に対する対策を職員で話し合いを行い、改善に向けた取組みを行っています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回、職員満足度アンケートを実施しています。毎月1回の全体会議やユニット会議でスタッフ同士の意見交換や提案を聞く機会を設け、反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の勤務の中で、職員個々の努力や実績、勤務状況の把握を行い、また定期的に個人面談を行い、各自が向上心を持って働いて頂けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加を促し、参加終了後には、全体会議等で他のスタッフへの情報の共有を行っています。また、10月からは2ヶ月に一度、中四国の「愛の家」の事業所が集まり、合同研修会を実施致します。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	玉野市のグループホーム協議会が半年に1回開催されるので、毎回出席させて頂き、他のグループホームとの情報交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントに行かせて頂き、ご本人と面談をさせていただき ご本人様が困っていることや不安なことなど傾聴する事で、安心して過ごして頂けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族と面談を行い、困っていること、不安なこと、要望等をお伺いしながら関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族が必要としている支援を見極め、ご本人様にとってより良いものを提供できるようにしています。また、サービスの変更があった時などは、都度相談し、変更しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長い人生経験の中で培われた知恵や教訓、料理や手芸を教えて下さったり、買い物では食材の選別の仕方をご教授頂くなど、暮らしを共にする関係を大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事のご案内をさせて頂き、ご家族と入居者が一緒にお過ごし頂けるよう努めています。また、運営推進会議や研修会にご家族に参加して頂き、共に介護について考えながら、ご本人を支える関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者に関わりのある方の面会については、ご家族の承諾を得て、馴染みの人との関わりが継続して行えるように支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が良好な関係が築けるように、共同で洗濯物たたみの手伝いを行って頂いたり、各種アクティビティーの中での関わりの中で、お互いが支え合う関係が作れるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後のご様子をご家族に確認させて頂いています。ご家族の承諾を得て、転居先の病院や施設へのご面会やお見舞いに伺わせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族のお話の中から、ご意向をお聞きしています。コミュニケーションの難しい入居者の把握についてはご家族の希望や意向や生活歴から本人本位の支援が行えるように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントや面会時に、本人と家族から生活歴や生活習慣等の情報収集を行っています。入居前に介護サービス等を利用されていた場合は、担当者から情報提供書を頂き、これまでのサービス利用の経過の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各勤務に入る前の申し送りやカンファレンス等で、日々の状態の把握に努めています。そして、利用者様の少しの変化も見逃すことのないよう、スタッフ同士の情報の共有に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向や要望を伺い、職員で話し合いを行ったうえで、介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の利用者様の行動や言動、また、利用者様の状態は個別の介護記録に記入しています。バイタル・排泄などは、一覧の表にしスタッフが一目でわかるようにし、情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な体調不良時の受診の付き添いや、外出希望時の同行等、入居者やご家族のその時々状況に応じて支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の幼稚園の訪問や2～3ヶ月に1回のボランティアの方の慰問など積極的に受け入れさせて頂き、地域との関わりの中で安全で豊かな暮らしを楽しむことができますようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者やご家族の希望を伺い、協力機関の往診、あるいは入居前のかかりつけ医への受診をして頂いています。また、希望者には訪問歯科による口腔ケアのサービスも行っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	社内には、看護師はおりませんが、往診医の訪問看護の看護師の方が来て下さり、全入居者の体調管理をして下さいます。往診医と訪問看護の看護師が同じ病院ですので、連携もとりやすくなっております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に情報提供を行い、入院中には担当看護師や相談員に様子を伺うなど、連携を図っています。退院時は、看護サマリーを作成していただき、円滑な受け入れができるように医療機関との連携を図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の意向を伺いながら、事業所で終末期ケアをご希望される場合は、医療機関、事業所、そしてご本人とご家族の間で十分な話し合いを行いながら、ご対応させて頂いています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内にマニュアルがあり、そのマニュアルに沿って対応しています。また、緊急時に落ち着いてかつ適切な対応が行えるように、消防署主催の普通救命講習Ⅰの受講を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、夜間を想定したものを含め年2回開催しています。6月開催した消防訓練では、玉野市消防署立会いのもと、地域住民の方のご協力を頂き、避難訓練、通報訓練、消火訓練を実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全体会議や研修で、入居者に対する言葉遣いや対応について考える機会をもち、尊敬の気持ちを込めた言葉遣い・対応を心掛けて行っています。また、記録物の保管については入居者の目の届かない場所で保管するなどプライバシーに配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の状態に合わせ、また、ご本人のわかる力に合わせてご自身で決めることができるように支援しています。耳が遠くコミュニケーションが難しい場合には、筆談でのコミュニケーションも取り入れています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の1日の過ごし方を優先に考え支援しています。その時々のお気持ちやご体調に合わせて支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時・入浴後では、入居者のわかる力に合わせて衣服の選択肢の提供を行い、ご本人にお選び頂いて更衣して頂いています。また、整髪や髭剃りはできる力に合わせて支援を行い、外出時には、お化粧などの支援も行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の個々のできる力に合わせて、食卓のテーブル拭きや下膳等のお手伝いをして頂いています。玄関前のテラスでお茶を召し上がって頂いたり、外食の機会を設けたりと楽しんで頂ける工夫をしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケア日報や水分摂取表を用いて、一日の食事量・水分量を把握し、個々の必要量が確保されるように努めています。また、体調に合わせて食事形態・内容を変更したり、補食でおぎなう等の工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所に誘導し、口腔ケアを行って頂けるよう支援しています。また、食前に嚥下体操を取り入れたり、口腔内のトラブルが生じた場合には、週1回の訪問歯科診療で定期的な口腔ケアをうけて頂いている方もおられます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターン、習慣の把握に努め、できる限りトイレで排泄ができるように支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を定期的に飲食頂いたり、食前に健口体操と称して適度な運動を行い、自然な形で排便ができるように支援しています。排便チェック表を活用し便秘が続いた場合は、主治医の指示のもと整腸剤や下剤にてコントロールしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴支援を行っております。ご体調やご要望に合わせて清拭や足浴の対応をさせていただきます。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムやその日の体調に合わせた支援を心掛けています。夜間、眠れない方への安眠方法として、暖かい飲み物の提供を行い、一緒に過ごしお話を傾聴するようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個人ごとの服薬ファイルを作成し、全スタッフが把握できるようにしています。薬の副作用などの情報共有が行えており、特に薬の変更・中止・増減等があれば、普段の様子とお変わりないか注意して様子を観察させて頂いています。内服支援時には、個々の内服を間違える事のない		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編物をして頂いたり、掃除の手伝いをして頂いたり、入居者の得意とされるものの情報をご本人やご家族にお聞きし、気持ちよく行って頂けるように支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎の行事や食事会・ドライブなどで外出する機会を設けています。また、日常的に玄関前のテラスを散歩されたり、ベンチに座りくつろいでおられます。また、ご家族のご協力を頂いて墓参りに行かれる方もおられます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは、ホーム内金庫でお預かりさせて頂いておりますが、ご本人の希望により、お財布に小額のお金をお持ちの方もおられます。その都度ご家族様に確認させて頂きながら支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者からの希望があれば、電話を利用頂けるように支援しています。ご家族に毎月お手紙をだされるご入居者もおられます。また、ご本人の希望により葉書を代理購入させて頂き、ご家族に葉書をだされる方もおられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や共用ホールには、季節感のある装飾を行い、その時々を季節を感じて頂けるように工夫しています。また、わかりやすい目印や移動が行いやすい環境を心掛けています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用ホールのソファに座りくつろいでおられたり、時には、居眠りをされる入居者様もいらっしゃいます。そして、仲のよい入居者同士でご歓談をされたりと思思いに過ごしていただいております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	当ホームでは、ベット・タンス・テレビ台は、備え付けですが、入居者の使い慣れたものを持ち込み頂き、できるだけ自宅に近い環境の中で居心地良く暮らして頂けるよう支援を行っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりのできる力・わかる力を活かして、本人が自分で行って頂けるように環境や条件を整える支援を心掛けます。居室やトイレがわかりやすいように目印を付けたり、個々の力に合わせたベッドの配置の工夫等行っています。		